



EX-PRESS

EXtra, EXpert and EXtreme

2005 Vol.

8



JSB 1000
ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

Photo by H.Wakita(c)

圧倒的な速さで貫禄のタイムアタック。チャンピオン伊藤真一が 今季4回目のポールポジション獲得!!

8戦で行なわれている全日本選手権も、このもてぎが最終戦となる。前戦の岡山国際で、伊藤真一がタイトルを決めた。自身3回目の全日本タイトルだ。90年にGP500、グランプリから帰ってきた98年にスーパーバイクで、そして今年、JSBのチャンピオンとなったのだ。何と息の長いライダーなのだろうか。38歳の超、ベテランライダーは、プリチストンの契約ライダーとして、MotoGPのドゥカティ・デスモセディチを担当している。前回のトルコGPにはケガで欠場したロリス・カピロッシの代役で出場、残念ながらジャンプスタートの判定で失格になってしまったが、多くのファンが伊藤の走りに期待した。

伊藤は今シーズン、7戦中4勝をあげ、圧倒的な強さを見せている。しかし、シリーズ後半、思わぬ伏兵が現れた。秋吉耕佑だ。8年間スキのテストライダーとして実戦参加のなかった秋吉が、第6戦の鈴鹿から参戦、2戦連続のポールポジションを獲得しているのだ。決勝レースでは8位と6位に留まっているが、その速さは侮れない。

朝から厚く覆っていた霧は、まだコース上に残っている。午前中の予選1回目は30分間。半分を終わったところでトップは山口辰也の1分51秒853。すでにコースレコードが更新された。残り5分。渡辺篤が1分51秒698をマークして山口のタイムを更新。残り3分に山口が1分51秒517とさらにタイムを縮めて再びリーダーボードのトップに。しかし、やはりチャンピオンが来た。

ニュータイヤを履いて残り7分でコースに戻った伊藤。残り1分を切ったところで1分51分434をたたき出して一気にトップに。ところがチェッカー後、秋吉が1分51秒081をマークして逆転。暫定ポールポジションをもぎとった。秋吉がポールポジションを取れば3戦連続となる。この秋吉から伊藤、山口、中富伸一、渡辺までの5人がコースレコードを更新した。

午後の予選2回目が始まる直前にパラパラと雨粒が落ちウエット宣言が出される。予選2回目は40分間というスケジュール。全車、スリックタイヤでコースイン。その後は雨粒が落ちたりやんだ

りの繰り返しになり、各車最後までスリックタイヤでのアタックとなった。残り11分。伊藤が1分50秒679と一気にタイムを縮めて早々にリーダーボードのトップに立った。いつ降り出すかわからないからだ。1回目でトップに立った秋吉は、なかなか自身のタイムを更新できない。しかし伊藤以外はだれも秋吉の1回目のタイムを上回ることができない。残り3分を切ったところで、中富が自身のタイムを更新して3番手に上がる。さらに山口もタイムを更新するが4番手。残り1分を切ったところで今度は渡辺がタイムを詰める。1分51秒363で4番手に上がった。そしてチェッカー。伊藤がポールポジション。秋吉、中富、渡辺がフロントロウを獲得した。

チャンピオン伊藤が逃げるのか、あるいはだれかが伊藤の独走を止めるのか、すでにタイトルが決まった最終戦は、ポイント計算の関係ない、ガチンコ勝負が見られるはずだ。

[青木 淳]



楽しみ方いろいろ。 MFJ SUPERBIKEの情報満載



GAORA(CS放送)で全戦放映!!
地上波ローカルTV局でもダイジェストを放映!
ブロードバンド動画サービスやライブムービーなども展開。
詳しくは、情報満載のオフィシャルファンサイト superbike.jp へ!!

辻村猛が圧巻のポールタイム。 気になるタイトル争いの行方は!?



金曜日のA.R.T.合同走行からコースレコードを更新する走りを見せていた辻村猛が、予選1回目に1分56秒098をマーク。これまでのレコードタイムを2秒以上更新する圧倒的な走りでポールポジションを獲得した。「テストから調子がよく、1分56秒台には入れられると思っていたけれど、予想以上のタイムが出た。自力でチャンピオンはないので、チームメイトのじゃまをしないように走る。午前中の感じでは、逃げることも可能だと思っていたけれど、午後の走行でペースが上がらなかったから混戦になると思

う。チームオーダーはない、ガンガン行くだけ」と辻村。辻村が優勝した場合、安田毅史は5位以下、手島雄介が4位以下になれば2連覇となるが、可能性は微妙なところ。ランキングトップの安田は、予選2回目に意地を見せてタイムを縮め8番手と何とか2列目につけた。5ポイント差でランキング2番手につける手島は、3番手とフロントロウからスタートする。手島が優勝した場合、安田は2位に入ればチャンピオンとなるが、予選は実に14人がコースレコードを更新するハイレベルな戦いとなっただけに、レースでは誰が前に来てもおかしくはない。

コースレコードを更新した中で注目したいのが、7番手につけた小林龍太と13番手につけた清成健一の若い二人だ。小林は、今年からST600クラスにフルエントリーしており、ホームコースのツインリンクもてぎで、好タイムをマーク。清成は、昨年、表彰台に上がる活躍を見せていたが、昨年末に大腿骨を骨折。今年は、なかなか調子が上がらなかったが、やっと本来の速さが戻ってきた。決勝でどんな走りを見せるか?

レースは、何と言ってもタイトル争いの行方に最大の注目が集まる。安田は、スタートを決めて前に出たい、手島は、とにかく勝つかない。辻村が逃げる可能性もあるが、酒井大作、徳留和樹、大崎誠之、沼田憲保、宮崎峻と猛者がずらりと並ぶ。王座を手に入れるのは、安田か!? 手島か!? それとも辻村か?

[佐藤 寿宏]

写真(上)辻村猛 (下):安田毅史(#2)、手島雄介(#48)

チャンピオン青山周平が、 今季6度目のポールポジション



前戦の岡山で今シーズン5勝目を挙げてチャンピオンに輝いた青山周平がポールポジションを獲得。横江竜司が続き、今回も、周平と横江がレースを引っ張りつづた。周平は、ワイルドカードでスポット参戦した日本グランプリ以降、ライディングの改造をしている。それは、より立ち上がり重視のライン取り、それに合わせたマシンセッティングを模索。「人間的にも、マシンのにもより上のレベルを狙うべく大きくセッティングを変えて走っている。1分53秒台には入れたかったけれど、タイ

ムだけではなく、セッティングもよくして、もっとレベルを上げていきたい」と周平。決勝に向けても大きくセッティングを変える予定と語り、そのセッティングがいい方向にいけば、またも独走のレースとなる可能性が高い。

その周平に、唯一ついていける可能性があるのが横江だろう。横江は、予選セッション終盤のタイムアタック中にヘアピンで転倒。この転倒がなければ、2戦連続ポールポジションも夢ではなかったが…。「予選のベストタイムは、全く無理していなかったで、まだまだいけるはずだったんですけどね。タイヤチョイスに悩んでいるところですが、決勝は、スタートで前に出て引っ張ってあげたいですね」と横江。岡山でも、レース終盤まで周平をマークした横江が最後に一矢を報いることができるのか?

ここ2戦で連続表彰台を獲得している及川誠人が3番手、高橋江紀が4番手と続きフロントロウにつけた。この二人が好スタートを見せれば、いつもと違うレース展開があるかもしれない。特に高橋は、目標となるライダーが目の前にいれば、トップ争いについていけるはず。及川も、セッティングがうまく決まれば、初優勝が見えてくるはずだ。

周平が今シーズン6勝目を飾った場合、ウィングラップでバレンティノー・ロッシばりのパフォーマンスを披露する予定だという。レースの行方と共に、周平がどんなパフォーマンスをするのが要注目だ。

[佐藤 寿宏]

写真(上):青山周平 (下):横江竜司

●MFJ SUPERBIKE EXpress執筆陣紹介●

[青木 淳] 『ライディングスポーツ』編集長。1982年から全日本の取材をしている。自らもレース参戦しているが、目標の全日本参戦はまだ先のことになりそう。鈴鹿8耐参戦経験もある45歳。
[佐藤 寿宏] 名前に“寿”があるため業界でのニックネームが“ことぶき”というめでたいヤツ。モータースポーツジャーナリストの片隅に置いてやってください。今年はMotoGPにも参戦(※ライターで)。
[川岸 健二] ロードレース専門誌『サイクルサウンド編集部』に籍を置き、全日本ロードレース取材は今年で6年目。「取材は足で稼ぐ」をモットーに、今日もムダ足を踏んでいる。

今年最後の意地を見せた井手敏男、 16歳の大谷和也にも注目!!



2005年シーズンは、ここツインリンクもてぎで最終戦を迎えた。すでに前戦岡山でクラス最年長の菊池寛幸がチャンピオンを獲得しているが、その他のライダーにとっては、これから本格化する来期に向けての話し合いを有利に導くために最終戦を少しでも上のポジションで終わらせておきたいところで、このレースが重要な一戦であることに変わりはない。

予選の行なわれた土曜は午後から雨という天気予報が出されていたため、各ライダーは午前

中の予選1回目から早いタイミングでタイム出しに入った。しかし実際には午後の予選2回目もドライの条件下で行なわれ、残り5分を切った時点から今年最後の激しいタイムアタック合戦に突入した。

まず葛原太陽が先陣を切って暫定のトップに立ち、ヤマハ勢のエース、井手敏男が午前中の転倒を克服して最後にトップを奪った。ここ2戦は不運が続いている小室旭が昨年王者、仲城英幸らの集団の中で3番手のタイムを叩き出し、同じ集団でチームの先輩、仲城の背後に付けていたSRS-J出身の16歳、大谷和也が大健闘の全日本初フロントローを獲得した。柚木伸介は終盤に順位を落として5番手となり、仲城は午前中のタイムを更新できずに6番手に留まった。そして菊池が9番手から3連勝を狙う。

予選上位はいつものようにベテラン勢が中心で、決勝も同様の顔ぶれが勝敗を争うと予想される。一方で「苦手なもてぎを克服しつつあります」と自信を見せる葛原と、「今期は目立った結果を出せていないので、最後のレースは頑張ります」という大谷のJha若手コンビが、百戦錬磨のベテラン勢を相手にどのように立ち向かうかにも注目したい。いずれにしてもチャンピオン争いが決まただけに、各ライダーたちは今年最後の思い切った走りを見せてくれるはずだ。

[川岸 健二]

写真(上):井手敏男 (下):葛原太陽

10/30(日) 決勝日イベント情報



※イベントの詳細は、インフォメーションセンターでご確認ください。
※イベント内容・出演ライダー等は変更、中止されることがあります。

4月1日より二輪車の高速道路二人乗り解禁!!
タンDEMツーリングでの来場を歓迎いたします。

Good Highway Manners
クルマもバイクも思いやり2倍

ASIMOも登場する恒例のキャンギャルオンステージ!!
また、ライダートークショーでは、ライダーの本音トークを聞くことができるかも、ファンファンラボで開催します。

キャンギャルオンステージ with ASIMO

●時間: 9:50~10:30

ライダートークショー

●時間: 16:00~16:30

●出演予定ライダー: 伊藤真一、青山周平、菊池寛幸

ライダー、キャンギャル、マシンやピットを間近で見られるピットウォーク。コース上ではレディス&キッズバイクパレードも開催。

ピットウォーク

●時間: 12:20~13:00

※ピットウォーク参加希望者は観戦券とは別に、ピットウォーク券が必要となります。

全日本ロードレース恒例の先導付きサーキット2輪体験走行 サーキットクルージング

●集合: 15:00~15:30(二輪駐車場 P8)

※走行無料・原付き以上

SUPERBIKE SUPPORTERS



あなたの観戦スタイルにあった4種類のチケットで、今年も国内最高峰のロードレースをお楽しみください。
オンラインファンクラブがSUPERBIKE SUPPORTERSとして新しく生まれ変わり、さまざまな特典のついたパスを販売しています



詳しくは、
SUPERBIKE SUPPORTERS事務局
TEL: 0285-45-8465 (AM11:00~PM7:00 月曜定休)
またはオフィシャルファンサイト superbike.jp まで

ミニバイクから世界GPまで
ロードレースのすべてがここにある

RIDING SPORT

毎月24日発売

2005年12月号<No.275>は好評発売中!

株式会社ニュース出版

CYCLE SOUNDS EXCITING
ROADSPORTS
MAGAZINE

月刊サイクルサウンズは
毎月24日発売

発行/株式会社ジック 発売/株式会社山海堂

GP125 Class Starting Grid

●予選日:天候/曇り 路面/ドライ ●決勝コースイン/10:15 スタート/10:30(14周)

1	2'01.084 5 井手 敏男 TZ125	2	2'01.119 19 葛原 大陽 RS125R	3	2'01.734 6 小室 旭 RS125R	4	2'01.752 12 大谷 和也 RS125R
2	2'01.820 7 柚木 伸介 RS125R	6	2'01.847 1 仲城 英幸 RS125R	7	2'01.856 22 森 新 RS125R	8	2'02.017 10 竹内 吉弘 RS125R
3	2'02.071 3 菊地 寛幸 RS125R	10	2'02.414 39 山田 亮太 RS125R	11	2'02.519 15 濱本 裕基 RS125R	12	2'02.563 77 中上 貴晶 RS125R
4	2'02.764 55 古市 石京 RS125R	14	2'02.996 31 井上 誠 RS125R	15	2'03.215 13 菅谷 慎一 RS125R	16	2'03.557 71 山内 隆史 NER125
5	2'03.658 9 山本 武宏 RS125R	18	2'03.937 66 渋谷 秋奈 TZ125	19	2'04.032 30 花房 一樹 RS125R	20	2'04.250 88 國吉 基寛 RS125R
6	2'04.312 49 大石 義次 TZ125	22	2'04.364 25 小磯 栄 RS125R	23	2'04.395 56 加世 昇大 RS125R	24	2'04.438 38 渡辺 一馬 RS125R
7	2'04.445 27 東 幸寛 RS125R	26	2'04.501 24 中村 貴紀 RS125R	27	2'04.623 36 福岡 雄介 RS125R	28	2'04.845 73 平石 理 RS125R
8	2'04.886 51 人見 研吾 RS125R	30	2'05.312 37 長谷川 稔 RS125R	31	2'05.341 29 岩田 裕臣 RS125R	32	2'05.396 59 石川 学衛 RS125R
9	2'05.602 35 木口 郁瑠 RS125R	34	2'05.719 32 更科 稔 RS125R	35	2'06.257 64 脇本 伸次 RS125R	36	2'06.280 26 船田 勝則 RS125R
10	2'06.382 41 椎名 貴之 RS125R	38	2'06.613 90 籠島 欣雄 RS125R	39	2'07.152 62 中村 公彦 TZ125	40	2'07.354 92 内田 修司 RS125R

ST600 Class Starting Grid

●予選日:天候/曇り 路面/ドライ ●決勝コースイン/11:15 スタート/11:30(15周)

1	R 1'56.098 1 辻村 猛 CBR600RR	2	R 1'56.978 24 稲垣 誠 YZF-R6	3	R 1'57.075 48 手島 雄介 CBR600RR	4	R 1'57.085 39 酒井 大作 ZX-6RR
2	R 1'57.140 54 徳留 和樹 CBR600RR	6	R 1'57.345 60 大崎 誠之 YZFR-6	7	R 1'57.492 55 小林 龍太 CBR600RR	8	R 1'57.521 2 安田 毅史 CBR600RR
3	R 1'57.589 4 沼田 憲保 YZF-R6	10	R 1'57.603 72 宮崎 敦 YZF-R6	11	R 1'57.746 90 奥野 正雄 YZF-R6	12	R 1'57.766 18 和泉 美智夫 YZF-R6
4	R 1'57.818 10 清成 健一 CBR600RR	14	R 1'58.068 12 寺本 幸司 GSX-R600k5	15	1'58.340 82 津田 一磨 CBR600RR	16	1'58.343 21 野田 弘樹 CBR600RR
5	1'58.349 44 浜口 俊之 CBR600RR	18	1'58.408 14 生形 秀之 CBR600RR	19	1'58.486 56 東浦 正周 YZF-R6	20	1'58.493 33 加藤 直樹 CBR600RR
6	1'58.617 95 松井 秀樹 CBR600RR	22	1'58.729 27 津田 拓也 CBR600RR	23	1'58.865 8 山本 琢磨 CBR600RR	24	1'58.963 92 國川 浩道 YZF-R6
7	1'58.969 13 高橋 英倫 CBR600RR	26	1'59.045 9 鶴田 竜二 ZX-6RR	27	1'59.124 50 清水 郁巳 CBR600R	28	1'59.196 77 青柳 幸広 ZX-6RR
8	1'59.298 26 泉本 真宏 YZF-R6	30	1'59.302 23 刈田 庄平 ZX-6RR	31	1'59.342 70 中山 真太郎 CBR600RR	32	1'59.382 22 秋田 貴志 CBR600RR
9	1'59.427 52 野崎 俊宏 CBR600RR	34	1'59.450 35 波多野 祐樹 GSX-R600	35	1'59.483 91 大金 孝弘 ZX-6RR	36	1'59.558 30 川原 英実 CBR600RR
10	1'59.567 32 藤下 和衛 CBR600R	38	1'59.633 34 宮川 英俊 CBR600RR	39	1'59.648 41 宇井 陽一 CBR600RR	40	1'59.722 45 の場 浩晃 CBR600RR

JSB1000 Class Starting Grid

●予選日:天候/曇り 路面/ドライ ●決勝コースイン/13:15 スタート/13:30(18周)

1	R 1'50.679 4 伊藤 真一 CBR1000RR	2	R 1'51.081 26 秋吉 耕佑 GSX-R1000k5	3	R 1'51.323 3 中富 伸一 YZF-R1	4	R 1'51.363 7 渡辺 篤 GSX-R1000K5
2	R 1'51.515 2 山口 辰也 CBR1000RR	6	1'52.297 11 辻村 猛 CBR1000RR	7	1'52.307 87 柳川 明 ZX-10R	8	1'52.395 45 松戸 直樹 CBR1000RR
3	1'52.630 55 出口 修 CBR1000RR	10	1'52.854 71 亀島 長純 CBR1000RR	11	1'53.139 19 須貝 義行 999R	12	1'53.193 8 森脇 尚護 CBR1000RR
4	1'53.243 6 小西 良輝 CBR1000RR	14	1'53.497 33 今野 由寛 GSX-R1000	15	1'53.857 53 八木 孝弘 YZF-R1	16	1'54.144 18 川瀬 裕昌 GSX-R1000K5
5	1'54.147 51 中須賀 克行 YZF-R1	18	1'54.637 21 東村 伊佐三 ZX-10R	19	1'54.952 32 名倉 嘉一 CBR1000RR	20	1'55.249 34 梨本 圭 GSX-R1000
6	1'55.624 52 藤岡 祐三 CBR1000RR	22	1'55.689 20 浜口 善博 CBR1000RR	23	1'55.990 63 高田 速人 CBR1000RR	24	1'56.033 61 高橋 孝臣 CBR1000RR
7	1'56.042 70 岸本 直樹 YZF-R1	26	1'56.071 59 山中 正之 CBR1000RR	27	1'56.082 704 中村 知雅 CBR1000RR	28	1'56.093 17 川上 智彦 CBR1000RR
8	1'56.466 85 古川 力也 CBR1000RR	30	1'56.543 99 下地 申悟 CBR1000RR	31	1'56.578 24 西 浩史 YZF-R1	32	1'56.646 41 野寄 真二 CBR1000RR
9	1'56.768 90 越澤 友一 CBR1000RR	34	1'57.075 56 清水 秀一 GSX-R1000	35	1'57.092 57 M.JUNGE GSX-R1000	36	1'58.966 48 向井 伸之 GSX-R1000K5
10	1'59.132 38 原田 洋孝 ZX-10R	38	1'59.393 62 栗林 剛 CBR1000RR	39	1'59.662 146 吉広 敦 CBR1000RR	40	1'59.750 67 掛川 啓一 CBR1000RR

GP250 Class Starting Grid

●予選日:天候/曇り 路面/ドライ ●決勝コースイン/14:30 スタート/14:45(16周)

1	1'54.412 73 青山 周平 RS250R	2	1'54.700 7 横江 竜司 TZ250	3	1'55.672 9 及川 誠人 TZ250	4	1'55.753 55 高橋 江紀 RS250R
2	1'56.587 16 佐藤 裕児 TZ250	6	1'56.978 59 R.WILAIROT RS250R	7	1'57.103 6 徳留 真紀 TZ250	8	1'57.293 8 秋谷 守 TZ250
3	1'57.556 19 松井 剛 TZ250	10	1'57.990 33 長谷川 剛 TZ250	11	1'58.091 17 石井 春希 TZ250	12	1'58.215 72 高橋 巧 RS250R
4	1'58.546 14 及川 玲 TZ250	14	1'58.891 15 櫻井 大幸 RS250R	15	1'58.913 35 岩井 耕治 TZ250	16	1'58.915 31 則谷 茂樹 TZ250
5	1'59.231 22 藤田 浩司 TZ250	18	1'59.566 36 飯塚 弘樹 TZ250	19	1'59.648 79 磯谷 晋一 TZ250	20	1'59.649 30 豊田 浩史 TZ250
6	2'00.694 34 小口 理 TZ250	21	2'01.552 78 安田 力 TZ250	22	2'01.804 60 河村 聖一 TZ250	24	2'02.331 47 小口 亘 TZ250
7	2'03.981 37 木下 武志 TZ250						